

第12講 文化・芸術

読解演習

解答

問一 ア・エ

問二 一人の人間に依って支配されている世界(十八字)

問三 例庭の作者が造った道を、作者が見たものを同じように見ながら(二十八字)

問四 位置すべき場所・見るべき視点・見るべきもの

〔見るべき視点〕「見るべきもの」は順不同

問五 ⑤ イ ⑥ エ

問六 (1) ウ (2) 頗る自信とくんだキリ札

問七 作者の小宇宙・キリ札ばかりで構成した世界

問八 エ

解説

問一 本文中の「排他的ないかめしいものではなく」「中に大きな農家でも匿かくされているような」「親しみのある」「ひどく手のこんだ贅ぜい沢なもの」という表現に合うものを選ぶ。

問二 第五段落まで読み進むと「異ことなった世界というのは、……」という部分がある。本文を最後まで一回読み通していれば易しい問題であるが、読み通さずに解こうとすると、答えがなかなか見つからない問題である。国語の読解問題は、必ず一回読み通してから問題に取り組むように注意しよう。

問三 線③からその段落の最後までの内容をまとめる。「庭の作者が造った道を」「作者と同じように見ながら」という二つのポイントを必ず入れること。

問四 第三段落に「位置すべき場所」という表現があり、この段落の内容を言いかえた第五段落に「私たちは見るべき視点を与えられ、見るべきものを与えられている」との表現がある。

問五 ⑤「一本の木、一つの石」という意味で、「いちばくいつせき」と読む。

⑥下に「掛軸」とあるから「床の間」という意味で、「とこ」と読む。

問六 (1) 「茶室は主人と客の、美意識と教養の対決の場である」ということから考える。「カード」は「カードゲーム」の持ち札のイメージである。

(2) 「作者が、選えらびに選んだキリ札」としても、内容的にはほぼ合っているが、「二十五字以内」に合わせ、「頗る自信」から書き抜く。

問七 「自然の一部ではない」とは、すなわち「創られたもの」ということである。

問八 ア「作者との対決によって」はよいが、「己の無力を思い知らされる」という内容は述べられていないから、不適切。

イ「作者との時を超えた出会い」はある。しかし、支配や対決の場であり「心が安らぐ場所」とはいえないから、不適切。

ウ 庭園は作者が構成した「人工的な美」である。だが、「自然と真つ向から対立する」という内容は述べられていないから、不適切。

エ 三世紀半前の作者との間で、「美」を巡る支配や対決が展開される場であるから、これが正解。

重要語句

① 往々にして……そうなりがちで。しばしば。

例文→仕事に慣れてきたところに、往々にして失敗する。

② 案の定……思ったとおり。読み方は「あんのじよう」。

例文→薄暗くなってきたと思っていたら、案の定、雨が降り出した。

③ 否いなが応おうでも……不承知でも承知でも。有無を言わず。

例文→安全のため、否が応でも、手荷物検査を受けてもらう。

④ とりもなおさず……すなわち。そのまま。

例文→真っ黒に日焼けしているのは、とりもなおさず元氣な証拠だ。